特別
へ7
5167
4

~7
5167
4

月瀬文庫

伯濟

和泉国堺の浦に善光寺の御堂あり。彼の堂の前に海あり。海の中に一つの小島あり。その島に一人の僧住せり。その僧、毎日に一度、海に出でて、海の中に入りて、海の底に沈みて、海の中に入りて、海の底に沈みて、海の中に入りて、海の底に沈み

わう法像菩薩像と伝どれど利生の奇特と釈
じのゝ咒や比叡山光寺は此の寺の柴いあ為極楽天
竺の地ゝ為ひて今吾光寺の柴とあがめまう
れよ生身の柴とも世ゝふ人ゝ尊の
ごとくうやまふ所なり守屋大連も尊
なでかとほりけとうびゝうの沒中暑して
かとけとひしとんれど和語よりとりとよ
ゝ義とうつうちに比一年と更ひる事あ言名
自兼流流沒よのそうり浸紙参考にもつて
をたしうやうれ事ゝ生身の字とつひろ

極宝無人化方便唯称弥陀得生極楽
ひゝ人ゝ無尼信都住生要集ゝ六道講式ゝ
尼しうの宿也極宝無人ゝ化のゝ方便ゝ弥
陀とゝ称へて極楽ゝ生もどゝゝと沒と利益もゝ
ひゝとハ一生遊無の所生ゝ仏ゝなゝとゝ
どゝ弥陀の事ゝ称ゝ法ゝ会仏ゝ尊び
極楽ゝ往生とゝ云ゝ訳紙の下和生れ義成
とゝ利元照律師ゝ者法下勅制那超越成仏之法と
ゝ人ゝ救生ゝ者力とゝ法ゝ沒法
沒とゝ云ゝ会仏とゝ利那ゝ

成仏は因なり未来とは律儀の祖師とのたまへども
あくまでもわるきこころのふかや仏祖師死よりは往生無量
とくあくのこころ往生とおもひ仏法は救生の業
は因なるべしまたまたまた

大願力也と縁して生をあらはす那先經とかきて
あとへ百枚の大石をとりて私のよしをかきて
私のちからつよくして石をなげよ石なげよ入らざるもの
石をさいかはまくをあらはすよしなげしいと空をとく
うの世人一生惡をつくれども臨終に念佛をとれば浄
土へ入らざるもの念佛をとなへんが小惡をつくるといへ
どもまた流罪に入るべし
どもまた流罪に入るべ
どもまた流罪に入るべ
どもまた流罪に入るべ

しうひあるをもつてのゆへに浄土を成ぜんと願ずまへ
ばりやうしんぼさつ菩薩摩訶薩の中に法華経を説
け堂をたてをれいをもつてこれを問神力ゆへに法華経を説
ける故なり九ぬけ中にいはく法華経を生ぜ堂のうへ高
さうよ何とくに仏堂をたてをれいをもつてこれを問神力ゆへに
女人の身をまぬがれきとの仏の制戒をもつてはこれを
如来滅後にをいてをもつてのゆへに人々に何ともいへること
なるべし南無阿弥陀仏
弥陀は女人を悪人とおもうくわとれこの人は第十八の
本願より十方衆生をもつてのゆへに人をもつてもまづ

けをもつてもつて女人は地獄をのがれたりとこそひとはれは
いかでかはのがれんとおもひ第三十五願より女人往
生願をまぐちひのゆへに男女をなを法華
経なりとも仏堂をたてをれいをもつてこれを制戒をもつて高
ぐ仏事をもつてこれをなくとも法華
をもつて法華経を信ずるこれ仏の事ぐとれ
故よりてこれいはく仏の制戒をもつてなくして人の
こころをもつてのゆへに人々に何ともいへること
く念仏申し也
れをもつて弥陀をもつてのゆへに浄土を願ずく一願より実を去

事をとゝびもそ西方極楽世界上品上生門浄土
いざわれん
称名ゝやり法華ハ道びくとゝろ善導禅師称名ゝ
南無阿弥陀仏ゝ法華経ゝ
ゝ法華経ゝ
ゝ法華経ゝ

ひゞき寺より門渡り乃寺をれいぞやまひろんと
をくもりなり
光明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨
光明遍照世界を南無阿弥陀佛と称
海の月光とそれ〳〵月光とこれ一月より海に光を
も浮れ光明偏照仏世界機とてをのゝ事無量とと
なりゝとうとと天台大師の釋〳〵
天仏世界天社世壹灯の壹えよ仏神之宝殿の
ゝ月一系統の人々を自然より業障れ出壹との
ゝ仏法性世明月ゝ〳〵うゝ光明とこゝ宝〳〵

壹世界とう事と法死珠林第四十八生死燈
篇に法花とゝ法花経くわゝれり
壹世界と仏法花経の文なり天台六祖云後生深
満世界とゝ釋名仏天竺の語より名也邪此りゝ
深海とゝ仏深満世界より生壹と仏生壹と今
ゝ仏法花経世界ゝ仏生壹
それ一会称名の壹世中にゝ指ゝ光明とまち壹
流来迎乃壹世とゝ仏ゝ仏遠壹ゝ仏壹ゝ壹満
ゝ人ゝ壹一ゝ白毫地ゝ壹ゝ

金剛名とゝ法師の名聞うと一ゑとるゝ事ゝりづる
ゝ言ゝそゝ法生とゝぐ法師ゝまちと
ゝん天台大師說經流ゝ或一金成經ゝ法生と
稱ゝ物ゝ稱ゝ光明とまちと金剛の元生と
おゝゝとゝんとゝ佛利益なゝ所ゝそんとまちと
ゝゝ靈元とゝ二十六靈ゝ外ゝ數ゝ
ゝゝゝ

元白居易とうあくとりて[illegible]義集をせよ
周書異記にいはく[illegible]
十二年壬申歳二月十五日辛酉天下りもちく
うしてあめに白氣十二ばかりたくみをうる
ようにありけるこれをなんだいうとかこ
ひとりとうこれをなんだいうとかこ
多義しく云あめに大星人いまいまの滅度の兆
わとぞ[illegible]
に白氣のつなれる事支那にまさしく[illegible]
なりあるは[illegible]

なくてふるとあり事[illegible]のあり法華集とよむよ
海記とりつ人は法華二百あまの遠記をぞらく
まり次は日に異なる記室よみてうたりといろへ
世とまりてのち十日ばかり異色とうこれを
うりは鄭あるとくうぶ人ぐう
信世界は幻相と記とうあ
うあり猶変成ばかり寄
光は未来とんあ
世界は幻相とは世のあ
はあうとんなる光事これがしまがり
はとうこれなるぶとうこれ幻とは幻相人は人と

けうり鐵は海とうりさ海ぐれ事とゐ世
どもあいうて生和他やうあまだやぐそゐ生海し
くあとかくもの天竺よ仏法ゐ法ゐ仏と世
よ幻術とうくく世和れうなゐ事とうとうあひ
しうく事勢まくくもれいう幻術ゐまぼうし
と名づく源氏まぼうしれまれもれん法花
参考八生めの幻の生れ中に何事とゐうんといゐ
霊りくうく法とう龍花経ゐ法ゐのおよ花
れうまのおけうとうくゐ世に有為物ゐれうひ
ぐとゐうくぐかも仏世よいぐくし法覚師く

とくくゐ世よいまうあ龍よ龍花経と親
じくさとうよいうとく事物渓海れ野人と教子
とゐくく世れ生世といくひあよくくもれ世とぐ
まゐうと事勢邂史よのをうもれようくみ
へうとうれ字のゐ嫌棄拙毒事いうまう海浮
海ひの世界ゐうぐいしうく造化ゐうとく五
為ゐれと云世伝よゐふぐとゐやをうゐ事と
生為ゐうといくゐ字とゐうぐし物衰
ううゐう事といくく電光石火ゐこれまゐれ

あるいは家流流より来れり八幡とく八幡は無量
のあうう中に鉄の石火宅といふ雷光とあり
二の無量の人は人を焼よのをもつて元天如法
師淨土或国云人生生無絶有幾時石火電光眼眼
後世とありひも法華人名は生涯のあいだ名人
失はしらぬくかどのあり三毒いるびうれをもつて
いと毒をしたがまとして国とうまれ年人食俗三昧
宝を論ずる人生生無石火電光とあんしうう石火
光中寿七月とのうちまれ年あり生死の苦をい
生ず来り死し去わり三毒といふ

三界は流浪りて犯人間の苦執の味ひをもつて
ふ

三界とは欲界色界無色界なり界は限也界也
と境とうるおりとあるあり所生の
境処とで三界よりうるおりは三界と名つ才
ず欲界とは住種欲あり所人住種とは淫欲と
くはものかりさもくはやまあん二は食欲とて
色は着もろこしは食事はひさがる
仏つ死人は淫欲とくは史婦雲欲れ乃ひ化天
下は阿鼻地獄より上界は化化天はいろまぐ仏

猶れ欲界あり所より欲界と名づく第二は色界とは
色々なる所に天人等あり猶欲界のごとく淫
げれども　きよらかなる色と清浄なる
ゆゑにこれを色界と名づけ第三は無色
界とは色なきゆゑにこれを無色界の
六天なり初梵衆天といふ所より次第に
ゆきて十八天に至れり河辺臈吒天といふ所まで
色界なり　無漏なるゆゑに化生なり
しかるに色界とは中間に欲界
とは色界と無色界とは中間に欲界
ありて色界なるゆゑに先に欲界の天より

ゆきて梵衆天のあるべきにいま
梵行織の所にゆきて死ぬる所にて
なる所は欲界なり　ゆゑに名づけて義孝王子
生れ流れ生れ流れ生死まことに
なる所は二界なり流れ流れとは
ひとりの事なり　ゆゑに
ぐりてさぐる事車の輪のごとくに
なる所はよろづの衆生
なる所はよろづの衆生
れ人間の衆生のごとくに
ゆきてこれを欲界のうち
ゆきてこれを欲界のうち
ゆきて死ぬ故に

ほれとぎをあけさまの事ぶ義よ親ぶんと
あまと歌うびして炉炬のこづまよ結びれあり
ぶ炉ぶき
とよ人ぶ乃れ高貴のこれあとをにあ人めるに今
みをもの隠りよ月乃のうやくぶ人れ高貴の
うちにぶちに生の如年ぶ乃のあり事ぶれど
すあいら紙年覚れ妙法とあれめるとれを
はとれ意よいうびれ事なるとそのすとばを
びくく炉炬のこづまよ心をびを事なる
しとく生の如年ぶ天台祖妙楽大師ぶ生

如海河殺生仏能名年業報中無自化能知紀
伝海れ中に乃生滅門生の如年ぶとれ乃の人
ぶ乃流生意ぶうこれくれ乃とさところり
りて金剛生の如年くあり
くまりとれくありあびこと乃生滅門とこれで
び生滅乃乃とこれくいづまれあて乃生の如れ観法
ありべれぶあれよ乃生滅ぶりりとり入くぶ生滅紙
くれぶ乃生の如門よりりぶと智旭の裂胸疏にも
法をこ乃とりあとべれ水とりあるとなる
れこそ意ぶくよ意ぶそそありべれ水と如てハ

るるに年等なるものの生滅門のごとく生滅門のごとく
生仏ともに流生するといろいろ名いわもどと芸如
門は無ものとなるいるるに年等なるものの芸如
学ぶ煩悩よりいくもろもろと次は煩悩の地は
ぬるとい煩悩をもろもろとなやまし苦悩をうる
よむとなりてとこの煩悩ばかりとりて仏果
にとるみるに何況菩薩集衆にまさるものをも
ゆえとるものもみのむしとばとものを対をすれば
貪欲といるむしとばとの心とばを第二は無
とわるがいろいろのむしとばとのるるに第三は慢
いるが我慢なるんがむしとばとのるるに第四は嫉
う称しんに第五はよい悪法とくいるむしとのお
とくるるしとばをもろもろをあつひを
以前は煩悩と法仏とのるるに一如師は法の第
聖法を義同煩悩を流菩提とのるるはに
ゆえるに法は十種百八法業をるるの
ゆえるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
男女は生るる
死滅して生死の海より
つるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

金言集云花厳経云流転生死崩壊仏道流転生死海開業乃雖窮劫云
とあり業云同如集云生死海開業乃雖窮劫云
業海漂荒波乗五智の弁舟渡煩悩の海をわたれば花厳の山に登り金剛
の宝を得ればかへりてまた生死の海にうかぶ
生死をいとうべしとつとめ身をいとうべしとすてよ
生死の海のごとくにうかべて成仏
生死にうかぶ人は生死にまよはぬ果とうたへり
法華経の文に五万十九道の
四十二菩薩の仏言流出八十事為無何苦為等何之
四四衆の二界の三有教盗婬妄の
元高嬢素嬢は是十悪不可説名十悪行

三種邪淫と法華経の
ものを盗人をわるものとなれば教と酒のいのちと
まぐわ男女をわるものとなれば婬といふ人
ぬまぐわるを不浄とをそれど信ずる者嫉
とぶりをして他の妻とかの事をそれ
まぐわ男女をわるものといふ
双方の中をとりもつ
事を密語といふ
いかり瞋恚とは義理
をうとをそれまぐわ
とかをそれ酒とむさ

こゝろとゝいふまことゝいふこゝろはこゝろもぎりてゝ拾成
ちゝんの事あることゝどうみとゝいふこゝろとゝもゝ
とゝ癡とゝいふこゝろはこゝろもぎりてゝ何の犯よおもくそわれ
あるれる事とゝいふこゝろはまぐゝこゝろ癡れこゝろあくゝとゝ
十悪といふこゝろは内よりあれこゝろはこゝろとゝいふこゝろは七ちゝ名
づけてゝ業とゝいふこゝろは悪のこゝろは邪道と名づけるこ
ゝろ也ゝ和合法ゝ也ゝ三界一心やり所ゝ無ゝ善ゝ何ゝ結ひれるゝ
及流生ゝ支分ゝ是ゝ三界何結ひれるゝ
和合法ゝ和合の流生ゝ心の業ゝ
こゝろ成道ゝ

業法ゝ流の流ゝ先ゝ流法ゝ也ゝ和合法ゝ
三界唯一心ゝ
業界なりゝ流ゝ三界の和ゝ流生界ゝ
流ゝ世界ゝ流ゝ法ゝ一法ゝ
の相ゝ流ゝ流生界ゝ流ゝ
流ゝ流生ゝ
ゝ流ゝ流ゝ
ゝ流ゝ
ゝ流ゝ

[illegible]と云り今[illegible]仏果とはんとあり法
[illegible]と云り仏[illegible]と知べく
さとりをいたすんやといふ[illegible]
仏界をもとをるべきたりて及びがう[illegible]
[illegible]を元数[illegible]べきがうしく方[illegible]なりいふて
[illegible]なりてもあるも仏[illegible]根
源なりのいでこ界のこ[illegible]と知べし成
仏の法をもつなりなどもの[illegible]
[illegible]法をもつ事[illegible]故りをひうこびひ
わるべしやとい我ら仏心と[illegible]なる事なれば

[illegible]ひなれとこの道のもれこ界[illegible]
浄土といふあれ凡夫[illegible]
こ界[illegible]如来峰[illegible]浄土成べく易べし
[illegible]寺[illegible]池の蓮[illegible]
こ界の[illegible]業とこ界[illegible]
[illegible]すぐれうちて法[illegible]の法仏乃法界のいる
[illegible]ひなれ[illegible]
こ界[illegible]法[illegible]
[illegible]求極楽何[illegible]こ[illegible]
乃ありられうる会仏[illegible]

好況時は自心即仏自仏即時は我心彼仏彼仏
之心彼仏は是我心之仏一体二体二故云惟心浄土性
浄土とは回向はいとまれ浄土とあらぐ〳〵我とし
れるなり浄土なりと名のり事成ぬるやうにしるべ
きなり弥陀ぐわんの中に十念見の外道は見ぬ
天如禅宗善度元興一元懐則地叶智旭恵聚大法
をしれるなりとかとうりうくを祝とゞ大祝ときうる
う事八十第後利の浄土とまゝゆうぐうとど
うぐうとしとれたちこ月は浄土紫と祝ぐとろうり
浄土第後はまろうとうとゆうぐうと惟心浄土とは

ゆとしてはんしうさくゆうぐうとゆうぐう
まくとゆうは善光寺は御池の蓮乃浄とゞくに花
とゆうさとりと中ぐ志〳〵ぐうんとなりまりれぐこと
とゆうは祝心のありのうく海浄は池とも浄土の池と見る
事ゆうりと天竺は祝法ゆうり西とゆう浄土乃池と安楽
の池とゆうのゆ池ゆうは老比丘釋阿の高よ
なゆいとんれ乃中心ぐの教ぐふもものせは池ゆうは
ゆうりとゆうも浄土のもちとゆうひとは世とゆ
ゆうは旧釋は浄土宗は表ゆうゆうはゆうは
いうは西は天竺は嶮の金仏とゞくゆうは

事なれども法華経の行者は業の身なり
一切衆生の父母の中に父なり母なり
なんどいうなんどは無益なり念仏の
といひ十番信者のひとり法華経を
捨て事なれども我と身をもつて
とのそれ念仏ばかりをもつて法華経
いまだ事えと既に捨てられ
名づくるなり
色と力と助け私重ねの
変じて力の助け私とかあるべし

変じて海となるべし
しかるに法華経の名
号と変じて南無妙法蓮華経
とかるべし
とい極楽浄土とうたへ
つくる極楽とまうすなり
平等大慧の経云河海
浮生死海乾竭

[illegible]文の意は文字に文字とあり
うひとあり二河白道の
[illegible]の[illegible]の[illegible]の

隔てどれもちのたくさんまく池の蓮華とうてたくさん
るかよその七宝ばかりにうつくしうかがやく七宝より名
高くあるまつ毒のかのぎすぐることまつにあらず
とけばこれを聞けばこれを聞いて分別ようをうり深の美味と
名河泳法華より池底弛以重海布地ちく松柔にい
重ね生ずと池の底ちとまるかをとあるかり
あるうくいあるを
命なるいのちは仏成身
才十四の年より成仏しくのち善知識
なりんとちひあるうちの法華河泳法華梵語此

仏言善男子とりて天竜八部人非人
りの我いのちをぐくとも法華土性生れ変生のいのち
みじくなる何の差あんやとおぼしめして
うさ十五の年より養育長養の恩とく極楽
より往生ろ彼者と同じ
あくかうまれかよひうひふと法華土より性生を
しくとれうち善男善女仏とんうち法華力
なり回向りよいあらひとりのとねど
為我成仏十方世界なるべし本願ち法華
ら今は我おの称ぐうき善の行業とまうそ

あるじくとのあるうえれ彼鄙より遠く行くえとり海
土の如くなるをとて十へ行くべ
善導和尚の云はく成仏十方所生称名号不定十
変云不生者不取正覚彼仏今現在世成仏者知
本願定不虚所生称念必得往生とあり此四
八字は称名の四十八願の第十八願とうひてはうかれ
うべと法然上人の教へたまひしかのごとくに
御ろよりは法華の来世の説とくるをもとも
ろに此経のうちより択出成仏とあり世の字
なれば本願なりて法華より選択集と

他へうつしかへしも此世の字をうつしかへ
をし選擇集は世の字とまぐれうのきくもの
わりとなんとは義大りあやまりとそ法華の説
は世の字と入くは十八字をもとりとく本願のうち
わてをうれうる事をこそ経文法場遣正流の法華
人は選擇集とうつくわうそ也とう時の事
あり其はみな世の字をうつかへり今ひうひとは
法をうれは経は意あくうもうもうれとは
ちいあとりのうもうれとは経の外法
所生報名号とうつくを也とは十方のいうんり

きやうせんへ〇覺ととらぐ〇ゆいはとものいまは現在
り成佛〇〇〇

ちからをこのむことこのうの義くを命者總御法根一身
之第人之所宝莫不為先尊以尊二之義以尊二之上之者
というこれをいのちの六根の勝れたるものとなす
一身のうちとろ処之人は大事とおもうのゆえ
何ゆえ是よりどんやうの仏はようくきもうと仏義といえど
ひとうなる仏はようくきもうと仏義とはいえど
仏雖ども義者くようくきもうとこれをもち
ちもうひとく拾乗は仏法をもとり
わうくう同じく記伝論流より帰命是源義元生
六根浄一心起而前自源弘法六華命根總拾六情

還源一心これ義のとれば記
れ義くみなもとのうの義くいえば還源
とこの一心をもんこれで所生れ六根をこれ自り
んろを耳はきくこと一心
くくまくぐのわぢりくの事とこの事
自れ本源の心よりそむくくとこの意義
まうひとをもくくの事と今とこの今いのちとる
もくのく仏はようくこれ
をりきとめくの大力の一心よ
いくこれの雖ども義者とこ

もろ〻の魔ものゝ心をたぶらかすなり

二乗をもて魔事とす

山海

第九魔とは法華経を

善導和尚の釋に利劍を足法華経号一切衆聖皆除と

ゆゑに会仏とつゞけたゝ

仏をヤ殺利劍とゝりてもろ〻の魔をとゝるゝ又天台の十疑論

に一園之菓の喻不制蹤の揮レ劍ヲ須臾斬ス之と

魔を仏と云ふ六十餘の菓とゝ云ふ

きたるゝり千丈ゝ云ふ人の勇力ゆるゝものゝ

ふたゝゝれなの十因のゝ仏のつゝゝのあつまりて

ひさゝのひてもゝれものゝ菓とゝ云ふ

たとへば法会仏のたとひ衆人の行ぜんをも
法後の利剣をさしたれば花をたちまちのぞきふ
の縄ろうをれをすくとは法後の十念ようりんじ
いざよりとすくうをみてうれたふとうとあまて花をき
らんとせば何者の一刀とすべしを手ハ法を竹の中にもる
すべし

和讃 浄土ハ十方信士
法後弥陀是和讃過十方往佛土有世界名因極楽と
りつるをうふ弥陀ふを法しと説也とも報弥陀ふを不
ともんとうり天台十疑論ふ法後佛ふ去レハ不ふを又業力
不思議なる故ふ一念の間ふ往生ふ不獲と
不思議なる故ふ一念の間ふ往生するとの
かをもむべしとも
法後未来の世ふ
十九の気ふ法後ふ未聖教ふを未報して行人を迷惑して
和方れ世ふ法ふ和んとも
世情高徳の妙花咲開く事ハ一時乃ちるべや
このきハ世ふの人情ふのどのとをを一途のわるハ
つとして仏法ふ和ぶる事なるを無法ふ是の実相ふ
すると花ハ妙法の蓮花のひらくふ法程法門のうい

えぐすかりらんぐ心中の妙花れひらくはゆとうりとし法花
経よ源世間を資生業等も皆正法とと紀多へはゆんれば人の
身をすぐ世をとうはてぐそまでもみな正法なれば意すべ智
慧ノ性学問業うもあれば法花開敷く自ノ別治世諸文資生業
業乃至戒経典数世諸仏正法とうとうのんへ
業法むの開敷の妙理りの法すると紀八世とのの人乃極を諸法も
士農工商の職もわるひれ皆是ひ或八ひうを是をひ
事とうなけわる仏ぐうるまでとくく実相の正法
此妙事八ものとうとれられ文をそればうとひの辞ゆうう
ものるし知じてひ山性の始終八ひ様てうをそれるがよくうるの事へ

ひすをふ彼世ひとりり仏法あれば世法ゆりをぐるをそうへ
事多書楽の妙自れ経仏事をもうぐ
事ううひ仏くの妙言をそうへて楽を奏する義を天台大師も考教
為仏事ヨとうり経如仏教を説法ゆ仏土再振利
とひ衆の元生乃再ふうて唐土月ゆうう教ゆるるれを仏
の教義ぐせるうて
物世とのれ経性の善所ふ動ぐむ
善根の縁まりて物世をまるべ経性と法性ゆ帰へる
善有ゆ動んとも先仏果れ他を物世とい車の海乃世とれ
とへひふをば天ゆ生ずるふたう人下ゆるをは地獄ゆ入ゆるれ

伽藍永明禪師云沈三昇二峯口免梅迦今代梅迦とのべ
事況昔所のごとくんとえん

高枕

妄念のひれてわどし枕を敷するし
寄林小屋とうし墨なく前生乃業とうし浄穢よも
と使ばなる天人迦ぐ毛鐵生乃器とのろぶ
竜宮ゴ天女も天女陸地ともつをとろ小屋林とふ
ち迦天堂ゴ死人と葬するおしひすれる紅塵乃器のどのぶとく
ひ林をすみて左ひさひさ加ふを林とおつく倍紙ゆひ林ゆ
の死しるるびなさ加ふんをえてすもひやうふゆておそろしさ

加ふ寄林とふ美徒とものせろくハくハ翻譯名義集第七
ゆそ乃死ろしひ屋とうし加ふ半ハむしゆつわろくみ塚のる
ふ加まるひ鐵中小鐵墨ゆろくゆ川の死體とゆて鐵鉄ゆて折
擬しけるびそとるふ偽ニ云因テ造具皮囊ニ波波刻く化兵
名ル金ニ枝乗不肖テ骨モ四生自業ハ猫鼠ゆ黄泉冥月
長夜ニ頭ニ痛悩ゆ恨悩雖レ忘レ恨倍の生ハ淺る愛ろかく
ちる波鉄のむくるるりのろちゆめ毛くも時水動の
る鐵墨とゆて黄ゆ交ゆ半ゆりいろびくれを世ゆのり
ゆハうりとあるも欲とくゆ半ゆはんろりやもくまづく
のひまも故生のりるるろ光ろとめづくびさろも鉄業因はと

づゝふ縞珠のかもさるれども英泉の振みそへまつひの月ぞ
いま指めてうらてをとゞとらやしそうゝとしまでゝとんをは
み花をゝ泊つ紙屋ゝ関てたく何加まるゝをとをやと養て云
ひ屋敷とゝろゝめゝとかくのぶゝとの加ふれとゆつ云何ん波
がんとをゝぐるや屋仍乃過ゝゆゝんとゝろうみゝぐゝくのいとまわり
てゝをとの天人いてまりゝ天むをとゝらまりてゝつのゝぶゝふ数ゝゝと
ゝゝる僧ニ云波ハ是前生縁。縁今天眼開。蜜衣袋会ニ。玉食自然ニ
来ル謝波ニ若勧若ゝ今ニ音ゝ今仕敬。数ノ花ヲ時ニ再特ゝ人世英ト云リ
猶とひ僧のをゝるゝんぐゝとゝれゝぐゝお生のゝぶゝゝれ今天人と数く
天眼通をゆゝりにゝの猶ぐゝらゝんふ芸ハんと芸ハ会のゝぶゝくゝみたゝ

まゝつゝゝゝ不老不死の飲ゝも自然と自ゝおゝゝゝぐゝ
いまゝんぐふ礼謝しゝくゝむゝゝの生ふゝゝゝつゝゝ加ふれをゝと
いまゝ安ふゝゝゝを泊ゝむ花と数ゝてひ謝再数す世人ゝれと見そ
ゝゝとゝゝさゝぐふゝゝゝゝとゝゆつゝれと見ゝ同云何加ふくゝぐゝと
養云我ひ屋ゝゝりて天人ふ生ずる事と泊ゝうひ屋ハすゝゝら是
ゝとゝ養ゝ云ゝゝ加ふゝりゝくゝふ界の云紙紙ずゝとゆつの云何ゝ花
ゝゝりて波ゝんゝ中ふ数ゝゝゝれ養ゝゝくゝかハ皆心所ゝゝゝ
何ゝゝ中ゝとすゝくゝ来ゝをゝとゝゝゝゝとゝゝゝ因縁ゝゝ別ゝ御御の三の業
何ゝ育ゝ五種ゝ喩ゝ浄土文ゝゝふゝゝゝ生ゝ始ゝゝゝ
の裏ゝ説ゝゝゝと大師一晩ゝ身五ゝ天祈反敬ゝ敬ゝ猶同

ア[illegible]と云るもとより此中も沙門の教化よりく心をつくべ
き事の二法は心れ一法なれば死魔より子細なるべきこと加之釋尊は
淨名文の第十巻より此教を云して弟子所り云化儀の外
の以ある徳は極外不可何外人非化於死魔之中一所に用死
魔ヲ云ハ皆外也譬ハ然近人用弓矢一用之如是外為是機
用之為不善外為熱悪機加為天人云ハ善也善用死魔云也
為鐵鬼云ハ善也不善用死魔云也是皆悪時一段也
文殊為礼之鞭之云何善[illegible]此中の意今は鐵鬼と天人と
の説をたぐめれ世俗を紀導する一偏の事もらこの死魔と打
つ事なるもとりとせばるべわるべきを外人のなりぬハ

かくらとりのやどりめらして生をそこ泊事もを世さらをつふ
をのいるるこだたまるをたくくいそぐ細工人ら生界の教をそふ
ろうとれるもを界よりハなるべくべたぐを死細工れと人為
かむくしりを界の[illegible]ひとわくくつひなるを死もなりさ
を界ろかとをを界ばを人とぶむべるべたをを細工ろうとをを人
いるべれをどく天人とるるものハあ世ふるくらどをつひなる
るを鐵鬼とるるものハさ死の生ふらどをつひなるをあるぬ
めをれどを世失はをを時ろ心づひの善事ろうひくと
ると死死をを面け鞭とうをいるべ事ろどやをの拙列を
をもの寂寞沙門の教化と同ぐ教を問云沙門のいまあ

すでふりつくすといまの経解のごとく同じ体裁となる事いと
蒼然解の凡ゝ如事まはしゆ門の弦いるゆゝ和と云者出
ふ淳古文ゝもゆつの猶凡ゝずと旨未ゆりの後ゆ小学林
林と事ゆ和なもれどふゆ幾生とふ生くとくこびも意ね
ゝる事と猶辞と死の繊毫の者とゆ偽ゆも浴く紛く性と論
ると死ハ生くせくのまもひいかゞゝふゆれど天人のお生ひ
生とゆ事ゆれハ幾生とふいゆ

告孟不二　天人とゆハふれ告ゝ繊毫
告孟の三道ハゆゝしくゆれども告別の犯ゝ生ゝ儒ゝ天初告繊
孟ゝ告ゝ点ゆは孟ゝ点ゆは繊也ゝ孔ゆも卿人ゝ告ゝ点ゆハ

ゆゝ告孟不告ゝ孟ゝと
ゝ告孟不二とふゆゝれど告孟の二ゝハ皆脈り心の人倫
孟ゝの射すれハ告とふゆゝを何ゝ孟ゝ孟ゝ死ハ告ゝ孟ゝ天
壹凝孫帥の猶ゆも生人ハ大歩ゝ河不可とふゆゝも告孟不
大猶ゆゝ告ゝゆゝのゆりていゝ老花ゝゆゝとする示の聖人死せず天
猶やゆゝの生ゆゝもゆゝ孟ゝ告ゝゆゝ山性ゆゝゆゝとゆゝ流孟冬
考二者ゆ右利ゆ後の智孟ゆゝ性ゆゝ偽ゆりとふゆゝゆゝ
ゝゝゆゝゆゝゆ

りとなをよくりくちうにかよくふ暑れ
十二 何とう振こ何をう振びんや　をーうりまわりの長恋不二のおうえ竜
参同僧縁ニ云ふ人ハ遇者不要ヘ遇レ樂ニ不来とあり悦ぶとう
ととうしとこるもこ分家ぢのうろのゆ流うり真性を生せて
うへうりハ何のうろとびうしひるうるんや
月夫ぬの光をを明を
夫ぬとハ自性実の龍とうてをし智慧ノ剣ノ裂網
老ン二云夫ぬとハ消クを性ふ者ハ北関国ニ亦北緑新ニ北
西分中ろ色去来不分前方渇望者ニ故ぬハ消クを性不
実ニ生ニ風ニ海ニ清ニ滅ニ別実ハ不ハ夫の

家ハまとうれハを性ぢりるるしびより好ら関づこのんるわ
らびまこ多とんくとうをとふらるんるもいるしび関るもいるしび中ろるるもいるしび色去来未祝生の角ぐをもるる又方角も
るる妄想をこられぬ加ふ夫ぬといふぬ夫ぬを性ふり
るる角半るる生もるる祝もるるわづびをまるしびを尾るしき
びが別くるもるるしびぬくうてるるるふしひ夫ぬの龍ハ泥海
いるかどに月を望をるる藕蓋ニ頃るも依仏祝ハ智慧未但一
月夫とるるもれをしひ夫ぬよ緑とハ変るの方れを細ぬ
半ハ泥ふふるんとんくべ〜今月ふたをていぐ渇り泥ふ新とう
つすハ緑夫ぬし一念ぬのくうりる元ハ不変夫ぬし揭とハ夫ぬの月

をも我しるのうちまでげて焼をとげるごとく自虫二昧よゆつるを
いふなり　三昧とは極楽願　揭千自月　なぐ云祖偈もある通
風光の景を破
これハ佛果ハ光来我浄の世界とゆ事ゆるとさとり已ま海
事ハ多くてひまもひのをぐこの概意して光来我浄をたつる
世界と名づけ大きなる事ハ佛祖うんのとこゆふと云も元
世界のをやがんとかぶ　めんれい門を安置双樹八本のうち
世界ハ多くゆ事とや法華経ハ宗旨経ハ宗旨ゆ事とのの
世界のとは光来我浄を生ら異して光来の景を破るとつり
を光来世界とゆ世間一切有

為のゆりを毎別してハ此身のびと光ハ虚幻とそまはつ
しのあくゆりゆるゆとゆ事ゆるとやまふ光ハ海
ゆる事なる光ハ光来世界と名づく法華経ハ光来
そ世界の又歌のたのしを色光のこちハ光来この国ゆ
ゆのを凡夫ハ色相ハ光ゆびさゆる毎ゆんゆてたのしとゆ光ハ楽願
例とゆし今ひ光来の景を佛教の風を仰てやがんと云を
法性常そびてハ上求菩提とゆ事ゆ事ゆ光ハ衆生
衆生と表しゆ金剛除ゆ及べ
法性の自性業障の智恵門とゆ事ゆ事ゆ
ゆて平等世智の二門しこのうちひ山中のゆとうふ光ハ法性を

者と釈し云ふなと若と釈ずるし天台家は附法 付事ノ釈とそ云る
かどの事きくかどの事とそ云ふ佛法よりうつりくる釈ずる事
其義僅の二字を天台 戒疏より指しかの心も其義翻覆の情覆ハ
謂ノ上来是名心也情ハ謂ノ下化是性也とそ云るとそ云へし
法性とハ法法ノ性とハ事と上畧して法性と云ふ天台云性ハ
謂攝内ニ自ら不改変性ハ若無とすれども如ハ如ハ如ハ
性と釈ずるハ如くそ十二位の如覆位のかるべき為海覆覆
の理なれとも者ハ如ハ者ハ如ハ者ハ如ハ者ハ如ハ者ハ如ハ者ハ如ハ
者とそとしる者とも弘智覆のと釈ハ計と云覆拆と釈と云
也次ハ如ハ心法ノ法覆ハ心ハ心ハ心

中の景のありさまを云ふなかぞくへて釈法とさだめしまこと成
ゆ八万四千の妙価と云ひみかを疑云ふなりおろぬるの八万
し云ふなもろ〳〵の品数をとるの仏もまた墨ひさしばを疑
きんを紀なして仏まをんとして俗行する事を下紀元生と
ハやしられは弘誓乳のと紀ハ紀生云ふ誓乳乳ハ金物除
と八恵心僧都三界義ふるれ世界の底ハ風輪ハ八風を
ひ〳〵かたして世界とたもてるを風輪の上ハ水輪ハ
水輪のいまだこりうをまぬされあるさ十二位二万由旬なり水輪
ひらに減してあるさ八海又由旬なりをみ輪の八ハ金物ハ
あるさ二位二万由旬なり水輪金物ハ八のまりあるさ十二位二万

四方東西旬なりとそうけ八ハ海婆界を建立そうの八仏祖
統紀世界名能者ふるべ水深険弱流動ハ絵ふるをとれる成
見てあるべし西業望強ノ彩紀ハ一切元生三毒三業遊色業界と
紀をもてしせ界のみ輪ハ金物色ハ元生無想のつるハ
八ふしと小乗ハ海婆ハ元生ハ下ハ金物像
まぐいりふしと倶舎世界ふ元生ハ下ハ金物像
柳山婆ハ生有ハ〳〵ふ元生ハ元生ハ又柳数ふ
山婆ハ鬼執ふ元ハ胎卵湿化の四生の中ハ元生ハ
し〳〵来ハ一会紀生の鬼ハ女とふ元生ハ
天ハ地獄畜生ハ鬼ハ魚胎紀ハ人畜具四ハ元生ハ

異疏に曰く鬼類は胎生も有り又化生も有る事し山姥と云ハ魔
鬼編に曰く山姥とやまうばと訓とうるる事しれ
すなわち鬼類なれバ全面恩愛なきものゆえ
ほとのなれを胎生の鬼類ハ母ゆ出る事ハ
物又此類なれ共この外に生前もゝ〻びやとゝもゝとゝろれ
ともひとゝひの始終とゝれバ山姥ゝ生て一切有情男の御母生
死と云ふ法ハ人間ハ生のうゝ〻ハ云姥ハ
病ゝて死ゝるをまの人間ゝ〻ゝ〻ゝ〻

もるべきものすべてはあるひはあるのをとこにぐうぜられ或はうごきこぶま
りて海はたゝへゆく河はわたるさがおのおのしこの肌の自性のある悪
と成べき理なるけものども一念の妄想より化生乃ものごと
けく鬼女と成し婆娑羅海すべて鬼ハ畏也猶虚怯の畏と雖
さりこれおそれなべき事とまぬかれしかるを仏ハ仏ものとも和合ハ
ふる時も鬼執の性も仏乃性と二性ハ更なるべきもの解脱
鬼形とわゝりなどもそれも又多分是色と心識なるゝハ色と
元来ハ空そなる海すべし和合して仏解すゝハ
性なるべしりて和合なるときと見ハ性相各別なりて美大乗のんと
ゆゝ成仏ハ脱のゝこらんとなる法ハ

もをまのこと以ゝ和合一かとハ和ハ和合ハ和合ハ
乃美相乃仏相と一かとハ乃美相乃仏ものとも
仏乃美相乃仏相と一かとハ和合ハ和合ハ
仏乃美相乃仏相と一かとハ和合ハ和合ハ
一法界皆一法界有別更乃除又万善同帰
ノ門ハ釈ハ云不市仏界ノ是魔界不二不別と捕行云釈ニ
魔界ハ仏ハ実相一万善同帰又云捨和合ハ和合ハ俱滅ハ雖和合者
善悪皆更ハ和合ハ和合ハ和合ハ和合ハ
の文と仏性紀ニ法ていく義雖ハ
伝教ハ是定第と見ハ又義ハ大のゝみのとゝを滅ての
えと見法ハ小乗の偏をと大乗のをちを滅すべこを
まくらさるゝすかりをとさるこれ性と見そすかりをこ

県行録賛求那跋摩三藏曰佛法世法通不礙者

ゐごとくぞと宗門の紙ハうけとつぎさうるゆハ無長燈のゆに
文字延をの年況をーとさうしられるのゆろめそれバらてれを
まいとゝ海頌いあくゝおちりひわるゆし
佛法ハ世法ハ世法ハ煩悩ハ菩提あるとゆハ世間ハ
元出あれバ山ハ焼もあり柳ハ緑花ハ紅か外ハ白く
佛法ハ世法ハ世法ハ佛法ハ佛ゝ法ハ世法ハ
男女種とゆハ世法ハ第一義種とゆハ仏法ハ佛法
と建立ゝそも世法をすてゝハ佛法ハ
立たまる世間休海去文人ゆいく雑氏ゝ教
有せる法色ゆ世せる法色ゆ源也法ゆりたゝていを

法ゆ門ハゆすて人ゆれもを名の俗ゆりのゆをりゆゝハをゆる
れぬゆものゝこのゆよ大師世師偽仏法者上人第ゆ文法をゆて文
衣と義ゆ為ゆるゆ仏法ゆ通す理ゆ理ゆの三義ゆゝゆも賜
衣ゆ門ゆとゆ名ゆを為ゆ衆ゆゝ為ゆ天子ゆゆ為ゆ天ゆ為ゆ
の仏法と天下ゆひろめんがためゆ五条衣をとさまゝゝもち座をゝ
ゆゝゆハ世法ゆゆ律ゆ偽ゆゆゝ仏ゆんゆの年ゆ
れバ仏法ゆゆ仏法ゆつゆあゝ仏ゆゆれゝも者ゆ本ゆ三文ゆ
衣ゆもをゝゝ木葉文ゝハ世ゆれ文衣ゆまゝゝゝゆゆゆゆ年
ゆれバ福形祓ゆも偽ゆゆゆを仏ゆゝゆゝ文ゆゝゆ用ゆも世
ゆゆとゝゝゝゆゆ偽ゆ大師ゆゆの御紙ゆゝれハ者ゆ不ゝ

もしめてる物なり又偏衫裟といふものも云わり圓より大きなる
しるる裂来れども世法なるべし生をうめくこゝひる所ゆ
[三寸圓絵なりしのせる小人如なるものなりと魏王にまゐ]
[偏衫裙圓三才ヅエニノヒタリ]
ゆるとなりしめて僧衣として裂ゆれの下ゆ着用する天竺の羅漢
[佛製ニハ多ハ七条内手横ヲタフトニテ今ニモ比丘衣トスル也]
生の絵とゆべし一人もられをきるるなれど佛家の撰尾ニ
[ヒダリ又ニキレハ右ノ肩ニカルウハガイガウヒノヤウニ三元也]
いうんがためをしりをとこちらうてひとりあるもの仏法なるべいうん
がしめて又一食をする人佛法なる物つゝて餅を食する人世法なる人佛
天無戒ハ[カエ]ンクノハ在ハニキレ之ヒタリ又ニキレハ奈良戒ニテハ無ナリ左ハ左廷死人法ニ[illegible]
ハわされ粥をきゝ人人のゆ海のりくゝ元をのものこゝりてゆ和く
大元のためゆゆるゆゆと小乗僧ゆ[illegible]ゆ人ゆ人世
法をなるゆれバまゝとれ佛法なれバ世法ありとゆ人ゆ

つまゆ俗ゆるゆゆ妃悩あれバ菩提ありとハ妃悩即菩提の義
あれハ卒塔婆小町の妃悩とゆも菩提なりと云ハ一生をゆ
し佛ゆ生ハ元生なりとハ偽ハ法乗ハ心ハ元生
生ゆ為元生ト時ハ心不滅為法佛ト時ハ心不滅ゆ
ゆり一段ゆれバ佛ととゆべくゆ元生とゆすべきゆ元
平等元のゆハ仏とゆ名ゆゆ元生とゆ名ゆゆ
ゆれて元生ハ仏とゆ名元生とゆ元生ゆ
ある所ゆ山地ゆ金剛座ゆ元生ハ元生
二乳ゆ涅槃ゆ上ニ本元生とゆりひ十二乳生とゆゆ摩訶の
妙ゆ元生とゆ元生ゆ元生ゆ

一乳とのたうたちまちに今の山葵もまさしくひれるれ八十二乳れ
元生がるかふむるかれ生れ山葵ハはるるの事とされども
毒蛇万像仏法実ねるれば柳もみどりのまゆみ花ハ
それ井のさゆとくべし一実一者も中道よりいとい事白さこそ冬
同借緑に隠くれ柳の枝 是法身蓮 英花を乳 殺あと河
り又藕蓋三頃もあ蔵も紅 変 蓮華緑 時といひ又 偶指同
蓋よ巣くく英蓋時緑柳ものくいふ数し
一樹乃陰一河の流も皆色世生衰源ぞう
ふ平ふもるんが故よ異れ
独を縁借の道とぐふ徳仏楽の因ぞう

独を縁借之法乃徳仏楽く因と白樂天のいる縁と言ハ独を
縁借とハ独〜毎縁しるけもるれたりまとしば心寄者とハ別よも
とこをいろくて云し道直ふとるふいを独云ふ縁の ふ一も即仏楽
と衰徳する也乃めているくしよあるを世佳万法の如花とひくを
云ふの下ふ引くる独寄用数の祝とこの不とんあるべしと也
とかいら孔梅花蕚提の心也
梅也と新也ぬ妄孔衰雲乃 塵縁つく山焼とるれ
梅也の事ハ上ふもるんがごとく因果云去孔縁一衣生百仏矣山焼
とるるも孔縁の雲乃えれぬれ自
蓋ふくもり若ふ知るさて

勢樹大ぜう云せるハ車ノ輪ノ如ニ或ハ上或ハ下くゆるとゝ凡ハ十善の法
して天上ゝのゝる事と善ゝきりとゝひわるとゝ凡ハ三毒とゝ
ひまゝゝて頭頸ゝもいりゝゝのんゝと表して岩ゝひぐきとゝいるゝ
さて世ゝ蹴鞠ゝ檜とゝいふ事ゝ我ゝゝ松ゝゝゝ

しかるに故聖人の御弟子といふ人々ありとも、聖人の仰せにあらずして、念仏を申さんとおもひたつこと、かへすがへすもあるべからず候。

二世三世の諸仏の出世本願ましますなり。

されば阿弥陀仏の五劫思惟の願も、ひとへに法然聖人の御ためなりけりと、しられ候ひぬれば、師匠と弟子と、ふたりながら、生死を離るべき道を、まことにこころざすばかりなり。

ただ一向専修専念にして、阿弥陀仏にまうしつけまゐらせば、たとひ一念にも、十念にも、やまひもなく、ながき命をたもつべきなり。

これ、ひとへに、ながき命をたもつべきやまひにもあらず、ながき命をたもつべきやまひにもあらず、ながき命をたもつべきやまひにもあらず、ながき命をたもつべきやまひにもあらず候。

ながき命をたもつべきやまひにもあらず候。

ながき命をたもつべきやまひにもあらず候。

ゆえに八種の法門域施の説はものるべきを因縁はかかへ説と見て
とり四域施も施益の正施はわれわれの導師永釈なれ
身ひられたり安楽行品より種法門域施を引くのをおろそかに
見侍るはいかに天化をばめてひらけ時はいまだ月星の光
もなりしかたとひ天人はまてるものはどもいでさの光
あてて〜て身と達をとりを時世界の人民はなほ苦悩を生
ざるをおくはおろかなる法門来不俗の品をてふりて菩薩我
つくりまてがひとりは宝無数と名づを法は宝塔とい
ひられすがら釈尊物ふるりあれ又仏義〜法塔との
二人とのまうされば代菩薩ともはひとりて第七の天上
よのがりくを第七宝をとり来り代男はいら月星石は

八宝をつくりて天上をとて〜〜をうへ表社会数をさだめ
はあるれがりとはもはは徳して云月月星石二天八宝の数の
ゆへは一切の法を人民をとゞ〜をもは法仏を傷れしの
ゆをこの教は月月星れを光もをとゞをんをとうをけて
のをはしりしは教はまへをだ
知方はすあいまんがるとゆやとりて右の眼侍とは法像の表の
ときをしすがいら勢至るりひゞりのと代は海はまれは報をこは
後は右勝右勝の表し釈迦は報世尊は大勝は是二天上侍をれは
とは代をうり侍とは八字は業は侍時更切青は近世健世侍
とはをはは代をゞは近智しは後は法の表のをとれをを
をとをとは腸侍とは法像の中はれは侍

勢至とハいふなり此ハ人ハ
生とたもくなり
有緣と雖も導きされもさ花とかうんずる天上のちうとう
なるよの大勢至とハ号也
有緣とハ縁わるゑんなとに等しき義なり観世
音菩薩の勢至観音に云有緣の衆生皆悉救護とあるより此和
するしおもうつとうんずる天上れかとうるゆへなる勢至とハ号
すとハ大徳も同意のことなり此ハ下雖三途苦中上力是故
號大勢至名大勢至とく此ハ人ハ仏
十力数五大勢至一名也三途とハ地獄
もき畜とうんずるとふ人文る得五力とかうえ乃家

の形よく似るなり世のやまりて天の宮殿の作れる又ハ月天
子宮殿ふくめて天子宮殿のなる欲界色界ハ此ハ内外上力とかう
四されば大勢至と名づくなり此ハ人ハ
ひ美薩紀時十世界一切衆生ハ
初摩とわうくれどく威勢通力すぐれる美薩なり故也
勢至と名づくなり
天冠の間ハ花の光りのやうなる毎の葉乃数くハ紀有の浄
土とかうつ
ひ主又観世音ハ
有又百宝花一一宝花有又百宝葉一一葉中二十方諸仏海
助玉土度長ハ和尚世尊ハ観世とかうえ文ハ美薩とハ

華嚴の華は蓮華の花なり蓮華の天冠は百ふさ蓮の花なり蓮華の一の莫大百の宝の蓮なり蓮華清浄の境のごとくなり十方
九弦佛の浄土なるゆゑに弦佛の教門なるとゆゑなり
とゆゑ絶乃至文の海を捨て今ひのとゆゑなり

玉珠瓔珞の風の音

玉瓔とはくもゐたまゑの海なるを玉と云海なるを珠と云海
の浄土のハはゆゑ中華嚴云風七宝なしたる玉瓔珞
とゆゑ弦佛の教門なるゆゑ有瓔珞の風の音
猶如嚴解之とゆゑなるゆゑ
とゆゑ海ハ絶なるゆゑ瓔珞とハ

とゆゑ弦佛の教門なるゆゑ
瓔珞とも宝蓮とも云ハ
風の音とハ浄土なるゆゑ風ハ音楽の音自然とするゆゑ
角徵羽の五音のゆゑ和合なるゆゑ
絲竹のゆゑ

何弦佛の教門なるゆゑ有楽音
なりて絲竹のゆゑ
のゆゑ
の絲乃ゆゑ楽音の絲竹とハ
の教ゆゑ調ハ十二調ゆゑ
ゆゑ

所の海岸迄と記す八ぼうぐく澤ちの池の中に蓮花ゆり大きさ
車ゝ物のごとく赤白のいろゝゝ色々あり
ら咲て微妙のめでたいさぎよきさまもしらぬ
池に六十億の七寶の蓮花ゆりたぐまれ黄赤白のこゝろゆゝしき
ごの文の所ゝゝ仏の浴後池乃畧名ゝ
寶ゝ池の色ふかゝやかなる赤の中
所の浴後池と記すひしぐく極楽
のあるを中ゝにそり池の底に金の沙と池に金ゝ人の
池とゝ八流海をとゝ八ふかくすあり三ゝ八清浄をあ
るゆゑ八ひやうゝくぬるゝ事なきゆゑ事義をいつゝ
あまくゝまし池ゝ八輕沢とゝ八ゝ
のがり繁茂わひすぎてゝとのでく池にあるゝ文ゝ八泥海とゝ八
ゝくものとゝゝゝてゝくゝゝ
ゝゝとやゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ長養沢根とゝ出根のあるゝゝ
出池の流し源の河ゝゝゝゝ
の七宝行樹の事ゝゝ
如ゝ行樹とゝゝ銀池ゝ八樹の
と記ゝゝゝ流ゝ樹の次のゝゝ
花ゝりて茅芳ゝゝゝゝゝ
茅芳とゝ毛見敬ゝ流ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ごとくれいこのゐハ葉山ちよりひ牧歴山よりゐる人根ハゐとくらゐ
いわくくのごくゐる者なりてゐくくものゐとくれいくくのごとく
のゐる人浄ちよりなくさ細めてハゐるけまとも世末の法法も世上
のくのゐるゐるバりなるやうれゐるゐりまひてハくのくもゐるひ
ごとれ如ゐ世のゐるゐなるまくまくゐ似ゐるものゐれハくとゐとう
ゐて雖ゐハ白鶴ゐ能鶴鶴。舎利迦陵頻伽。芸命しゐるとて浄
ちれ六種ゐるとなげゐふ常ゐるりまとハ法後変化のゐるゐ
れハ実ゐ浄ちふ畜生ハゐるさしこまとうくゐ浄ちのゐらし
とゐるべくくてひゐるれゐるきうづる変といそぐ法後法ゐとれ
変法ごくくひをゐくくのゐ是如ゐ六時ゐ和雅の者後ゐりてゐ報
ゐカ七宝ハ提ゐ八宝ゐゐるゐるの法を演法如ゐちれ生とゐ

者後ゐてゐるゐとくくを三寶の会を生ずるゐ又報後ゐの者鷹者
者ゐ皆後如法とゐるとれハ六種ゐるさ法ゐてゐるべくくひ六時ゐ
れ智恒とくく法偽ハ遠教雅ゐ義解を作りてひ法を西方に迴
向してゐの三れ世後頻伽とゐるり浄後ゐりりてひゐく法象
とのくハ可ゐるんといそれくゐる者もゐ
三昧光とハゐづゐうう
三昧光とハすゐりう勝如れ常ゐ報見ハひ菩薩
一毛孔光ゐ即八十方三昧法佛ノ浄如光明ひ菩薩
ゐ三昧光とゐりひをハひ大勝如菩薩のひゐりもの者ゐれ
ひりを見てもすゐりう十方三昧の法佛の浄如の光明をゐむ
分ゐ如ゐ勝如と三昧光とゐづゐ者礼法師ノ如宗如ゐ勝

て云光照十方故に立く無量光佛とも云なれば阿彌陀佛は十二の
佛名のうちに無量光佛といふなり阿彌陀佛の光明遍照
十方世界念佛衆生攝取不捨の光と見るるなれどもいはうひのかゞ
やかりて浄土は在敷うつくしきひけらかしの御車の
ゆふべ西にもこのうつくしい物哀の月と勢至と見るべきなり
ひとすぢ来れば勢至は月輪の如くなれば月輪の
うちに下れうつくしのうつくしとつゝべき様なる姿まで雲月の
ある時は影みちまたある時はかくれ有為の世中といひけ
うるなりいよ〳〵勢至の無量光佛なるべきなり
雲月のある時は影みちまたある時はかくれ有為の世中衰
定めなきことを示したり

無量光とは云ずして勢至菩薩の名なるべしまたひて月とのうつる
とも満ちかけのあるは生死有為の世の中にうつる
定めなきなるべきなり
人のためしふさんとて月をもてけて
人をかゞやかすとは寂業無相の法門偈に同月輪徹更渡月海已
波破暗業障無光速是とあるも是なり
かゞやくは月のいざなふをやくの世の中とあり有
為相変とは有為は造作の義なり造作とは生死のまよひの不作
のあるはのごとく云相変とは相はめぐりかはる変はうつりめぐりかはる
車の輪のめぐりのごとくまよひてうつるがゆへにてんぐと
云なり
妄執

こゝろをのゝ会釈のあしとふとうつくしそうるれぬをえん

閻浮（エンブ）

法華経（ホケキヤウ）

法華経の中にあらはすあらはせ世界（セカイ）のふん